

小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る課題整理について（中間報告）

地域特性と公共交通の現状整理結果及び各種ニーズ調査結果を踏まえ、まちづくりや観光と連携した持続可能な公共交通ネットワーク形成を行う上での課題を以下に整理します。

1) 多様化する市民ニーズ等に対応した公共交通サービスを提供する必要があります

- ・ 地区別の高齢者人口増減を見ると、名鉄小牧線沿線や桃花台ニュータウン等の地域において高齢者人口が増加しています。（図1）
- ・ 利用者アンケートでは、こまき巡回バスを利用するようになった理由として、「高齢になったため」が多くなっています。（図2）
- ・ 公共交通の乗降状況を見ると、「ひとりで乗降できる」が約94%を占めていますが、「人の介助があれば乗降できる」「車イスのままであれば乗降できる」もそれぞれ2%未満存在しています。（図3）
- ・ 公共交通の利用が可能な徒歩での移動可能時間は、市民アンケートと利用者アンケートで異なる結果となっています。（図4、図5）

図1 地区別の高齢者人口増減(H17~H22)

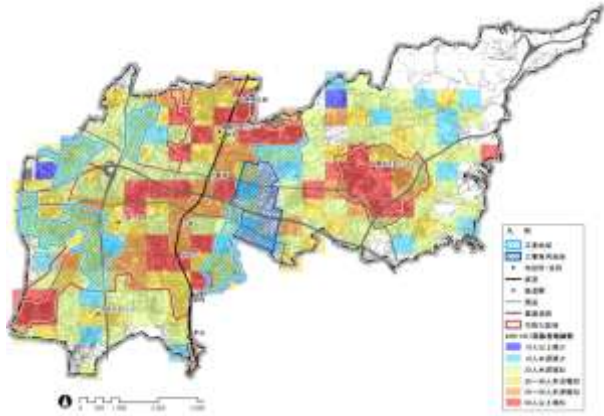


図2 こまき巡回バスを利用するようになった理由(利用者アンケート)

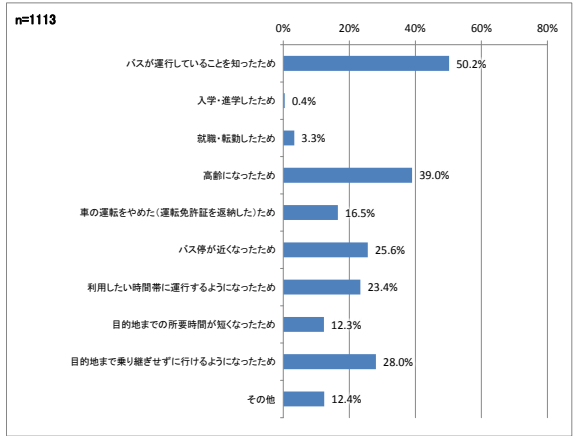


図3 公共交通の乗降状況（市民アンケート）

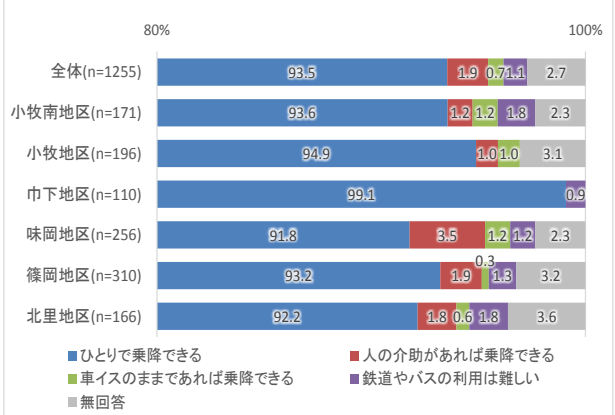


図4 徒歩での移動可能時間（市民アンケート）

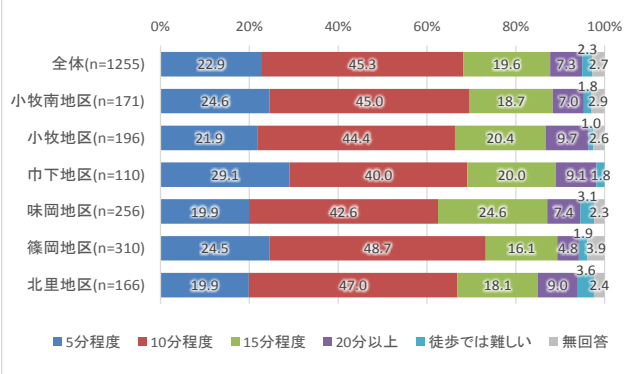
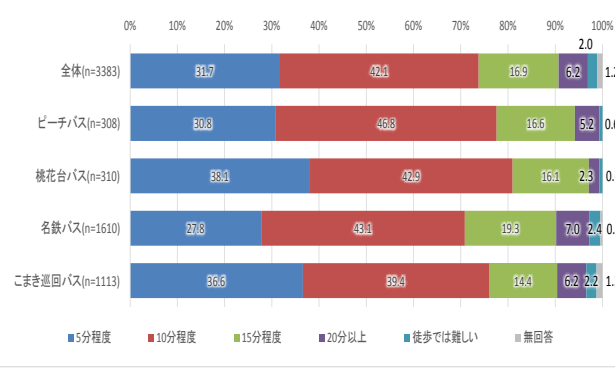


図5 徒歩での移動可能時間（利用者アンケート）



⇒多様化する市民ニーズに対応した公共交通を展開していくにあたっては、高齢者人口の増加を踏まえ、公共交通の乗降状況を考慮したバリアフリー車両の導入や利用者の歩行圏域を考慮したバス停設置の検討が必要です。

- ・こまき巡回バスを「週1回程度」以上利用している市民の割合は、約4%であり、一方で「利用していない」市民は約80%を占めています。(図6)
- ・市内公共交通の認知度を見ると、バスが走っていることや最寄りのバス停の位置は約80%以上と広く周知されている一方、バスのダイヤやルート、運賃は約40%未満となっています。(図7)

図6 こまき巡回バスの利用頻度について (市民アンケート)

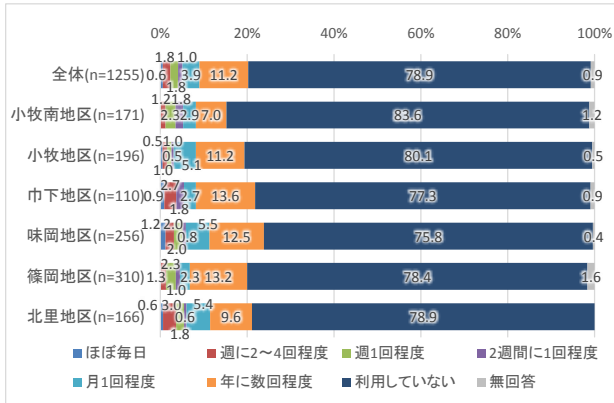
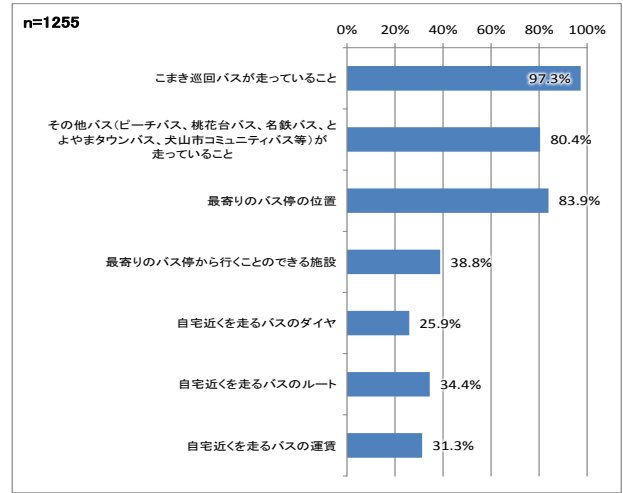


図7 小牧市内を運行している公共交通に関して知っていること (市民アンケート)

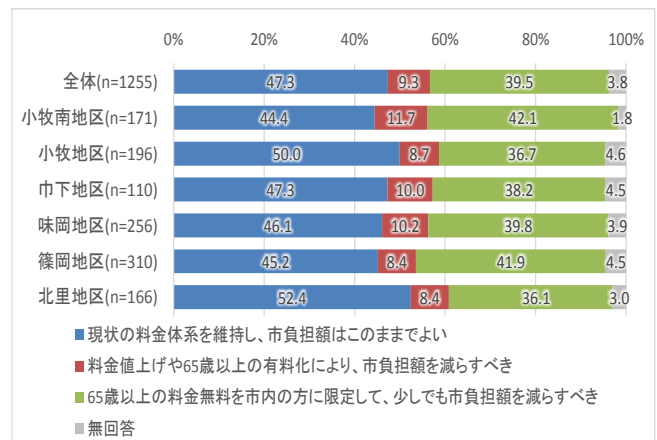


⇒こまき巡回バスの認知度は高いものの利用していない市民が多い状況であるため、バスのダイヤやルート等を周知することにより利用促進を図ることが必要です。

- ・こまき巡回バスの運賃体系 (65歳以上料金無料など) に対する市民意向は、「現状の料金体系を維持し、市負担額はこのままでよい」が約47%を占める一方、「65歳以上の料金無料を市内の方に限定して、少しでも市負担額を減らすべき」も約40%存在しています。(図8)

⇒こまき巡回バスのサービス提供にあたっては、適正な受益者負担に基づく運賃設定や、福祉施策との調整を踏まえた料金割引制度の運用等の検討が必要です。

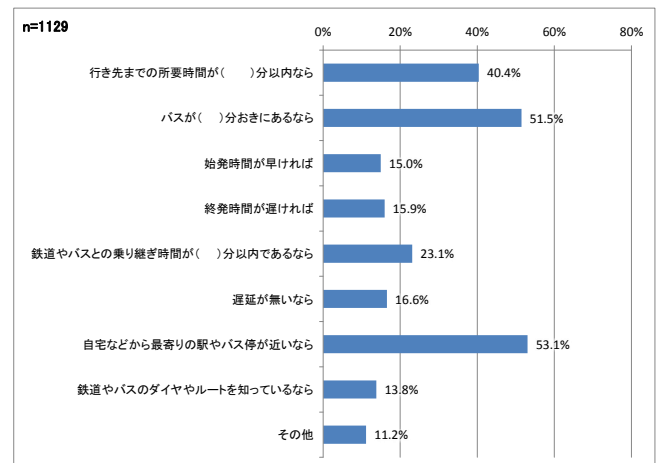
図8 こまき巡回バスの料金体系について (市民アンケート)



- ・公共交通非利用者が公共交通を利用可能となる条件は、「駅やバス停の近接性」「バス運行間隔 (運行本数)」が多く挙げられています。(図9)

⇒多様化する市民ニーズへの対応を図るためには、交通事業者、小牧市がそれぞれ独自に対応を図るのではなく、路線バスやこまき巡回バスが地域公共交通ネットワークとしての役割を明確化した上で、必要となるサービスの改善・提供を検討する必要があります。

図9 公共交通非利用者が利用可能となる条件 (市民アンケート)



2) 公共交通ネットワークとしての評価・検証及び対応方針を明確化する必要があります

- ・地域公共交通網形成計画は、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を図ることを目的の1つとしています。
- ・市民アンケートにおけるこまき巡回バスの利用者が少ない路線への市の対応方針のあり方に対する市民意向は、「減便をする」と「現状通りバスを運行する」が同程度となっています。(図10)
- ・バス利用者の年齢層を見ると、こまき巡回バスでは70歳以上の高齢者の利用が半数以上を占めています。(図11)
- ・市内公共交通利用者の乗り継ぎ状況を見ると、半数以上の方は鉄道、路線バス及びこまき巡回バスなど、公共交通機関相互の利用が存在しています。(図12)

図10 こまき巡回バスの利用者が少ない路線の市の対応方針のあり方(市民アンケート)

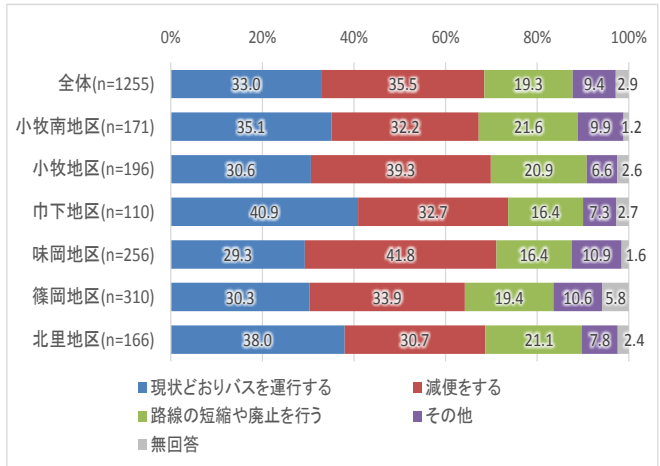


図11 利用者の年齢(利用者アンケート)

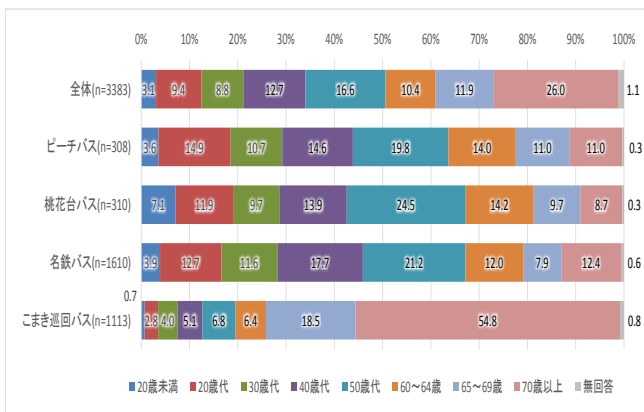
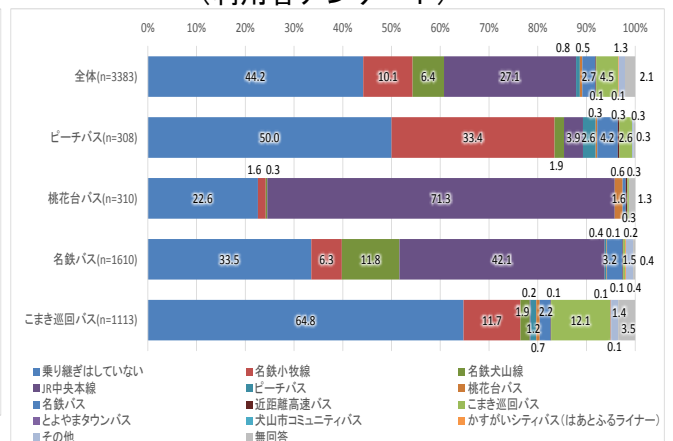


図12 市内公共交通機関利用者の乗り継ぎ状況(利用者アンケート)



⇒こまき巡回バスの妥当性を検証するためにも、地域特性や利用特性を踏まえた個別路線評価の継続的な実施は必要ですが、今後は個別路線の評価結果を踏まえた、個別路線の確保・維持・改善に対する対応方針(路線機能やサービス水準の変更等)の明確化が必要です。

⇒対応方針の明確化にあたっては、利用者の乗り継ぎ状況や利用者の年齢層、料金体系(こまき巡回バスの65歳以上無料など)等を踏まえて、各路線の機能や役割分担を定め、個別路線評価に加え、市内公共交通が一体となった、より良い公共交通ネットワークの形成を目指す評価・検証方法のあり方の検討が必要です。

3) まちづくりや観光施策等と連携した公共交通ネットワークを構築する必要があります

- ・地域公共交通網形成計画は、コンパクトシティの実現に向け、まちづくりや観光振興等と連携した公共交通ネットワークの形成を図ることを目的の1つとしています。
- ・小牧市都市計画マスタープランにおける都市づくりの目標では、鉄道駅周辺等における拠点を中心に、多様な機能が確保された集約型市街地の形成を目指しています。(図 13)
- ・市民アンケートにおける公共交通に対する市の方向性については、「公共交通の充実は、市民にとって重要な施策であるため、今後も重視していくべきである」が約 77%と最も多くなっています。(図 14)
- ・今後の公共交通に期待する役割については、「名古屋へ行きやすいこと」が最も多く、「小牧市内の医療機関に行けること」、「小牧市内の拠点間を結ぶこと」などが挙げられています。(図 15)

図 13 小牧市が目指す将来都市像 (都市計画マスタープラン)

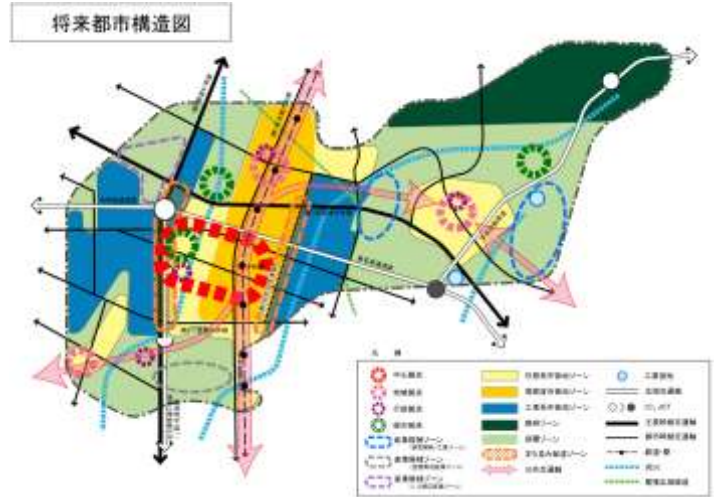


図 14 市の方向性について (市民アンケート)

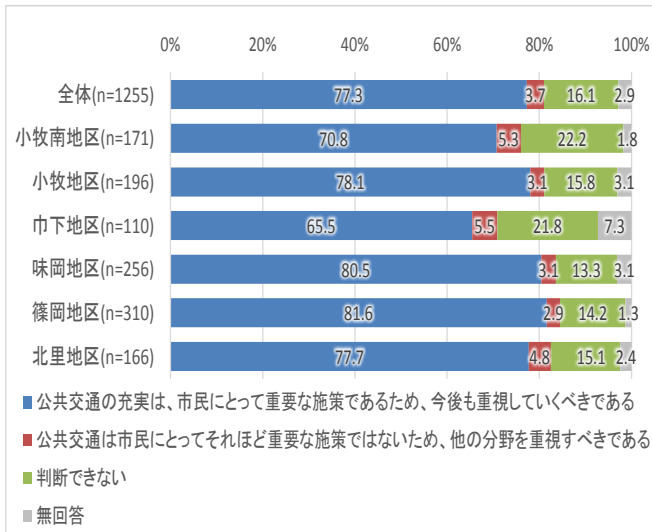
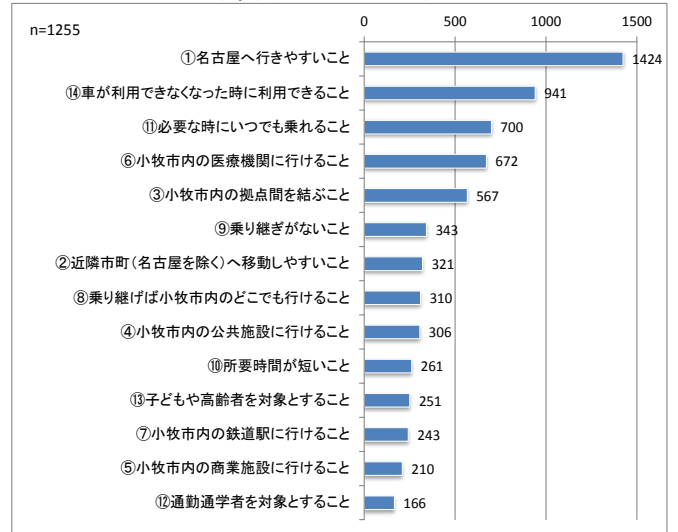


図 15 今後の公共交通に期待する役割について (市民アンケート)



⇒小牧市が目指す鉄道駅周辺等における拠点を中心とした多様な機能が確保された集約型市街地の形成の実現に向けては、まちづくり計画、観光振興等とも連携し、公共交通を軸とした公共交通ネットワークを構築することが必要です。

⇒公共交通ネットワークの構築にあたっては、市民が望む市内医療施設等へのアクセス及び、市内拠点間の連携に加え、名古屋への行きやすさに配慮が必要です。